

但馬皇女の高市皇子の宮に在しし時に、竊(ひそ)かに穂積皇子に接(あ)ひ、事既に形(あら)はれて作りませる御歌一首	
人事乎 繁美許知痛美 己世介 未渡 朝川渡 人言を 繁み言痛み 己が世に いまだ渡らぬ 朝川渡る ひとごとを しげみこちたみ おのがよに いまだわたらぬ あさかはわたる 人のうわさが多くて、うるさくてたまらない。 今までに渡ったことのない川を、朝、渡り、あの人に会いに行くのだ。 (明るいから人に見られるだろうが、かまうものか。) Because the endless harsh rumors make it pointless to hide, I set off this morning to do something I have not dared even once on my life, stride across the daylight river!	英文はマクミラン(2019)による 万葉集 巻二 116 但馬皇女
【文献】 ピーター・J・マクミラン(2019): 英語で味わう万葉集, 文春新書 1245	
https://kochi-esc.sakura.ne.jp/wordpress/%e4%b8%87%e8%91%89%e3%81%ae%e5%9c%b0%e5%ad%a6/	